

複式第1・2学年 国語科学習指導案

I組 1年 男子4名 女子4名
2年 男子4名 女子4名 計16名
指導者 古園 正樹

- 1 単元 こたえをかんがえながらよう（教材「くちばし」光村1年上）
じゅんじょに気をつけて読もう（教材「たんぽぽのちえ」光村2年上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

（第1学年）

この期の子どもたちは、「はなのみち」の学習で、主人公の行動を中心に内容の大体を読み取る能力や、絵と文や場面と場面を対応させながら楽しく読もうとする態度を身に付けている。

そこで、ここでは、問いと答えの關係に着目し、内容の大体を読む能力を高め、主述のつながりや文のまとまりを考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章から大事な言葉や文を書き抜く「くらべてよう」の学習へと発展するものである。

（第2学年）

この期の子どもたちは、「ちがいをかんがえてよう」の学習で、同じ観点に沿って違いに気付いて内容の大体を読み取る能力や、文章から大事な言葉や文を書き抜いて自分の思いを伝えようとする態度を身に付けている。

そこで、ここでは時間的な順序を考えながら、内容の大体を読む能力を高め、事象と理由の文としてのまとまりや内容を考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、時間的な順序を考えながら事柄とその理由を読み取り、自分の知識や生活経験と結び付けて思いや考えを発表する「読んで考えたことを話そう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「くちばし」は、3種類の鳥を取り上げ、くちばしの形状とそうになっている理由が解説されている説明文である。また、本教材は、問いと答えの2つのまとまりで構成されている。さらに、本文は問いと答えのクイズ形式になっており、イラストと文を対応させながら読み取るのに適した教材である。

本単元では、動物に関するクイズ作りを言語活動として設定する。そして、それぞれの文が問いと答えの構成になっていることを捉えさせる。

教材「たんぽぽのちえ」は、日常生活でよく目にするたんぽぽを題材に取り上げ、花が咲いてから綿毛が飛んでいくまでの過程を、新しい仲間を増やすための「ちえ」として順序よく説明している説明文である。また、「二、三日たつと」や「～だからです。」などの表現は、時間的な順序や事象と理由の区別をとらえながら読み取るのに適した教材である。

本単元では、たんぽぽの賢さについて思ったことを紹介カードにまとめる活動を言語活動として設定する。そして、時間的な順序を表す言葉に着目させながら、事象と理由を関係付けてとらえさせる。

具体的にはまず、両学年に共通する生き物に関する不思議なことや仕組みについて交流する活動を同時に行い、生き物への興味・関心を高める。そして、終末段階で、生き物について調べたことを異学年間で発表し合うことを確認し、教材文を使った学習の必要感をもたせる。

次に、それぞれの教材を学年別に読み取らせていく。

そこではまず、鳥ごとに教材文を読み取らせ、くちばしについての内容が問いと答えで書かれていることをとらえさせる。次に、読み取ったことから、どの内容にも問いと答

そこではまず、たんぽぽの「ちえ」を読み取らせるために、「～ます。」というたんぽぽの様子や「それは、～だからです。」「～のです。」という理由を表す文末表現に着目させ、内容の大体をとらえさせ

えが同じ順序で書かれていることに気付かせ、教材文を基にクイズを作らせる。その後、教材文を通して学んだことを生かして、材料として提示した写真を基に動物に関するクイズを作らせる。

さらに、終末では、まとめたものを異学年間に対する成就感や達成感を味わわせたい。

このような学習を通して、子どもたちは文の役割を考えて読み取ったり伝え合ったりして学び合うよさを味わうとともに、異年齢集団のかかわりの中で互いに学びを深め合う喜びを実感することに結び付いていくと考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

第1学年	第2学年
【①鳥について知っていること】 空を飛ぶ(8), 巣を作る(5), 卵を産む(3)	【①たんぽぽについて知っていること】 黄色の花(8), 綿毛が飛ぶ(7), 種がついている(5)
【②初発の感想】 ・鳥にはいろいろなくちばしがある(8) ・鳥のえさがたくさんあって驚いた(4)	【②初発の感想】 ・たんぽぽについて知らないことがあった(7) ・倒れてもまた起き上がるのが不思議(4)
【③問いと答えへの気付き】 ・問いと答えに気付いている(2) ・問いに気付いている(6)	【③理由を表す言葉への気付き】 ・「～からです。」(6) ・「のです。」(2)
【④写真から問いと答えを考えたクイズ作り】 ・問いと答えがあるクイズ(2) ・問いだけのクイズ(2)・無回答(4)	【④時間的な順序を表す言葉の必要性への気付き】 ・気付いている(3) ・気付いていない(5)

子どもたちは、これまでの日常生活の中で鳥と関わった経験が多くあり、身近に感じている。(①)導入の活動に生かしていきたい。また、ほとんどの子どもたちが、教材に対しておもしろさや驚きを感じているが、問いと答えの関係に気付いている子どもは少ない。(②③)これは、子どもたちが文同士の関係をとらえて文章を読む経験が少なかったためだと考える。さらに、写真を見せてクイズを考えさせたが、問いと答えのクイズを作ったのは2名であった。これは、クイズは問いと答えで構成されていることを、具体例を示しながら指導していく必要がある。(④)

難語句については、図鑑や拡大写真を提示するなどして、視覚的に理解させる必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 文の構成を考えながらクイズを作らせるために、鳥のくちばしと全体が写った写真を準備し、くちばしの形状やはたらきにつ

る。その後、たんぽぽの成長を表現するには、時間的な順序を考えながらまとめることが大切であることに気付かせ、順序を表す言葉に着目させる。たんぽぽの「ちえ」について思ったことを紹介カードにまとめさせる。

で発表し合って意見交換を行わせ、それぞれの学習

このような学習を通して、子どもたちは順序を表す言葉や文末表現などを基に読み取ったり伝え合ったりして学び合うよさを味わうとともに、異年齢集団のかかわりの中で互いに学びを深め合う喜びを実感することに結び付いていくと考える。

子どもたちは、これまでの日常生活の中でたんぽぽを見たり触れたりしたことがあり、身近に感じている。(①)導入の活動に生かしていきたい。また、ほとんどの子どもたちが、たんぽぽに関して知らなかった事実に驚き、興味をもっているが、事象と理由を関係付けて考えて「ちえ」を読み取っている子どもは少ない。(②③)これは、「～からです。」の文末表現に着目することができなかったためだと考える。さらに、順序を表す言葉を使った表現が分かりやすいと感じている子どもが少ない。(④)これは、時間や事柄の順序に沿って読み取る経験が少なかったためと考えられる。

ア たんぽぽの不思議さへの関心を高めさせるために、生活科の学習でたんぽぽを手にとらせたり、観察させたりする時間を十分にとる。

いての文を作る際に活用できるようにする。
イ 問いと答えの順序に気付かせるために、鳥についての内容の構成を比較させたり、問いや答えに書かれていることを考えさせたりする。

ウ 単元の特性や児童の実態から、学年別指導を行う。間接指導時にはガイド学習を行い、教師が話し手の子どもやその根拠を、聞き手の子どもたちに問い、外言化させる働きかけを行う。

また、ガイド学習の話合いで考えをまとめた後、教師が子どもたちだけでは気付くことが難しい考えに働きかけを行うことで、考えを深め広げさせるようにしたい。

3 目 標

- (1) 鳥のくちばしに関するクイズを作ることに興味をもち、各文の役割を確認しながら事柄の順序を考え、進んで読むことができる。
- (2) 鳥ごとの文や写真を比較して、問いと答えがあることやその順序性をとらえ、自分なりにクイズを作ることができる。
- (3) ア 問いと答えの内容や順序、文と写真の対応を考え、内容の大体を読むことができる。

イ 事象と理由という文のまとまりをとらえさせるために、説明した事象の理由を相手に問い返し、その問いに答える活動を行い、「～ます。」「それは、～からです。」といった文末表現に着目させる。

- (1) たんぽぽが生長する「ちえ」や理由に関心をもち、解決したい課題を確かめながら事象の変化について説明した文章を読もうとすることができる。
- (2) 時間的な順序に従って、事象の変化の説明と理由の説明を関係付けて読むことができる。
- (3) ア 時間的な順序に沿った事象の変化とその理由を考えながら、たんぽぽの「ちえ」について読み取ることができる。

イ 学習したことを基にクイズや紹介カードの発表を通して、身に付けた力を振り返るとともに、同学年・異学年の友達へ考えを伝えようとする意欲を高めることができる。

4 指導計画（第1学年：全8時間、第2学年：全10時間）

学習課題・主な学習活動（第1学年）	学習課題・主な学習活動（第2学年）
1 学習意欲の喚起 友達と、いろいろな動物の問題を出すクイズ大会をしよう。 どうぶつクイズをつくるには、どんなことがたいせつだろうか。 2 教材文を読み、クイズの構成を理解する。 (1)～(3) きつつき・おうむ・はちどりクイズを作る。 3 自分で選んだ動物の写真を基に、クイズを作る。 (1) クイズを作る。 (2) クイズを発表する練習をして、準備をする。 4 合同発表会をして、意見や感想の交流を行う。	1 学習意欲の喚起 植物について知っていることや不思議に思うことを、友達に発表しよう。 たんぽぽの「しょうかいカード」を作るには、どんなことがたいせつだろうか。 2 たんぽぽのちえを読み取る。 (1)～(4) たんぽぽのちえ①～④の読み取り 3 たんぽぽのちえを紹介カードにまとめる。 (1) 紹介カードをつくる。 (2) 同学年の友達と交流する。

5 本 時（第1学年：5／8、第2学年：6／10）

(1) 目 標

問いと答えを構成する文の順序に着目して、自分で選んだ動物の特徴について、問いと答えの文を用いて説明することができる。

「～からです。」の理由を表す言葉に着目して、たんぽぽの綿毛は天候によって様子が変わる理由を説明することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちは、好きな動物の写真から特徴を見つけてクイズを作るが、5つの文（ヒント、問題、答え、使い方、食べ物）で作ることが難しい。そこで、「なぜ、〇〇さんのクイズは分かりやすいのか。」と問い、5つの文で問いと答えを構成すると分かりやすいことに気付かせる。

子どもたちは、晴れ・雨の日の綿毛の様子が異なる理由を、雨の日の叙述を基に説明しようとするが、晴れの日の綿毛がなぜ開いているか気付きづらい。そこで、「晴れている日に綿毛が開く理由が書かれていないのにどうして分かるのか。」と問うことで、「～からです。」が理由を表す言葉であることに気付かせる。

(3) 実際 ○ 直接指導時の具体的な働きかけ ● 間接指導に入る直前の教師の具体的な働きかけ

主な学習活動（第1学年）		位置	主な学習活動（第2学年）		教師の具体的な働きかけ
1	前時を振り返り、学習課題を確認する。 どうぶつの くいを つくるには どうすれば いいのかな。	1	1	本時の学習課題を確認する。 (1) 教材文をみんなです朗読する。 (2) 本時の学習課題を設定する。 なぜ、たんぽぽのわた毛はひらいたりすぼんだりするのだろうか。	○ 課題を焦点化させるために、たんぽぽの「ちえ」に着目して音読させ、気付いたことや疑問に思ったことを話し合わせる。
2	学習の進め方を確認する。 ・ 写真を見ながら文を作る。 ・ 文を並べ替える。	3	2	学習の流れを確認する。 ・ わた毛の様子 ・ 開いたたりすぼんだりする理由	● 時間の経過を表す言葉や様子を表す言葉に着目させるために、教材文にサイドラインを引かせる。
3	3つの文を並べ替えて、クイズを作る。 (1) 写真を見ながらクイズを作る。	5	3	たんぽぽがわた毛を開いたりすぼめたりする理由について話し合う。	○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために、同時間接指導の互いの考えを交流する活動において、「○○さんの説明をもう一度言えるかな。」と聞き手の子どもに問い、説明させる。
	どの動物のクイズを作ろうかな。				● 「～からです。」という理由を表す言葉に着目させるために、「晴れの日に綿毛が開く理由が書かれていないのか」とどうして分かるのか」と問い、理由を話し合わせる。
	ぼくはキリンを選んだよ。ヒントは、「長い首です。」にしよう。	20			○ 自分の思いを、経験と結び付けさせるために、「たんぽぽのちえでかしこいと思うところはどこか。」と問う。
	きつつきの問題でいうと、「さきがするどくとがたたくちばしです」と似ているね。				
	作ったクイズを友達と交流する。	3			
	友達はこの動物のクイズを作ったのかな。				
	なぜ、○○さんのクイズは分かりやすいのかな。	5			
	きつつきの問題のように、ヒントや問題が順番に並んでいるからだと思います。				
4	本時のまとめをする。 とりの くちばしのように、もんだいや こたえの じゅんじょで ならべればよい。	5	4	本時のまとめを行う。 天気によって、わた毛のとばしやすさがちがうから。	
5	本時の感想を交流する。	3	5	たんぽぽのちえについて、思ったことをまとめ。 6 本時の感想を交流する。	